



不朝西女編

15  
1189  
1



15  
1189  
1

其見

其見

其見

其見



水野氏

序



先生姓も平にして和國裔と稱す海峽此處也  
神學經學小暇を以て守り半余年を経て  
まづて曰日本に生るる男子少くして日本此要樞  
を以て掃りて餘力の餘り自ら儒經佛書此必  
系考の爲し一に何ぞ唐土とて中  
一我必と書きしとて此書豈日本の人と云ふ  
もんや日本は古來より豊茂原中國と稱す  
そあふふすれ一其稱あるは

本朝要樞

三

君ハ九ノ御官ふましくして御事ハ此ノ御事  
 さまふりる武將ハ御不在して國政と執りし御事  
 堯舜の治も及ぶべし民を御不安と枕と  
 ころくせりる友よ書林の系世を御清極本に  
 御せん事とわじ先生学ん御清くいと色い  
 御くくま取め不意とこしふよ御して席と御  
 事志のり  
 和回定流の事

江別山田庄 石直の本内小半

本朝要樞

目錄

第一卷

東夷考  
 天子考  
 冠位考  
 封爵考

第二卷

質素考  
 守屋考  
 泰伯考  
 日本考

第三卷

神道考  
人相考

宮社考

第四卷

雜考

以上

本朝要樞卷之一

江州湖南平野社司

東夷考

和田市正定胤著

孔子春秋の法小西土と中國と一西土乃政のどるぬ  
 西夷夷狄と唱ふは是万世の法也我皇とひて中と  
 一人の必とひて外とさふり天理自然の理なり  
 御を俗儒偽とあくらん唐と中必と理まの  
 西夷夷狄と唱ふは是万世の法也我皇とひて中と  
 孔子春秋と説あるふ本意と各人のあや音  
 本朝の豊芦原中必と理て万必とくらん必ひて

神聖統と意あり所の西之日本記と我日本と以て  
申す一日本此政化乃行と云うは西之我書と唱  
ある事我國史不明也信儒者日本と以て其書と  
唱へあふと中國と云ふものも後漢書及び隋史宋史  
元史明史等日本と以て東夷と記さるを以て  
吾國不生も如く古古より國の名稱ありよとも  
衆を根ふ吾邦と以て東夷と云ふはあふと申す  
しよは如く且宋濂が日本曲あも千年程漢の衣冠  
と教ふかど書くと云て日本此礼樂制度宮室

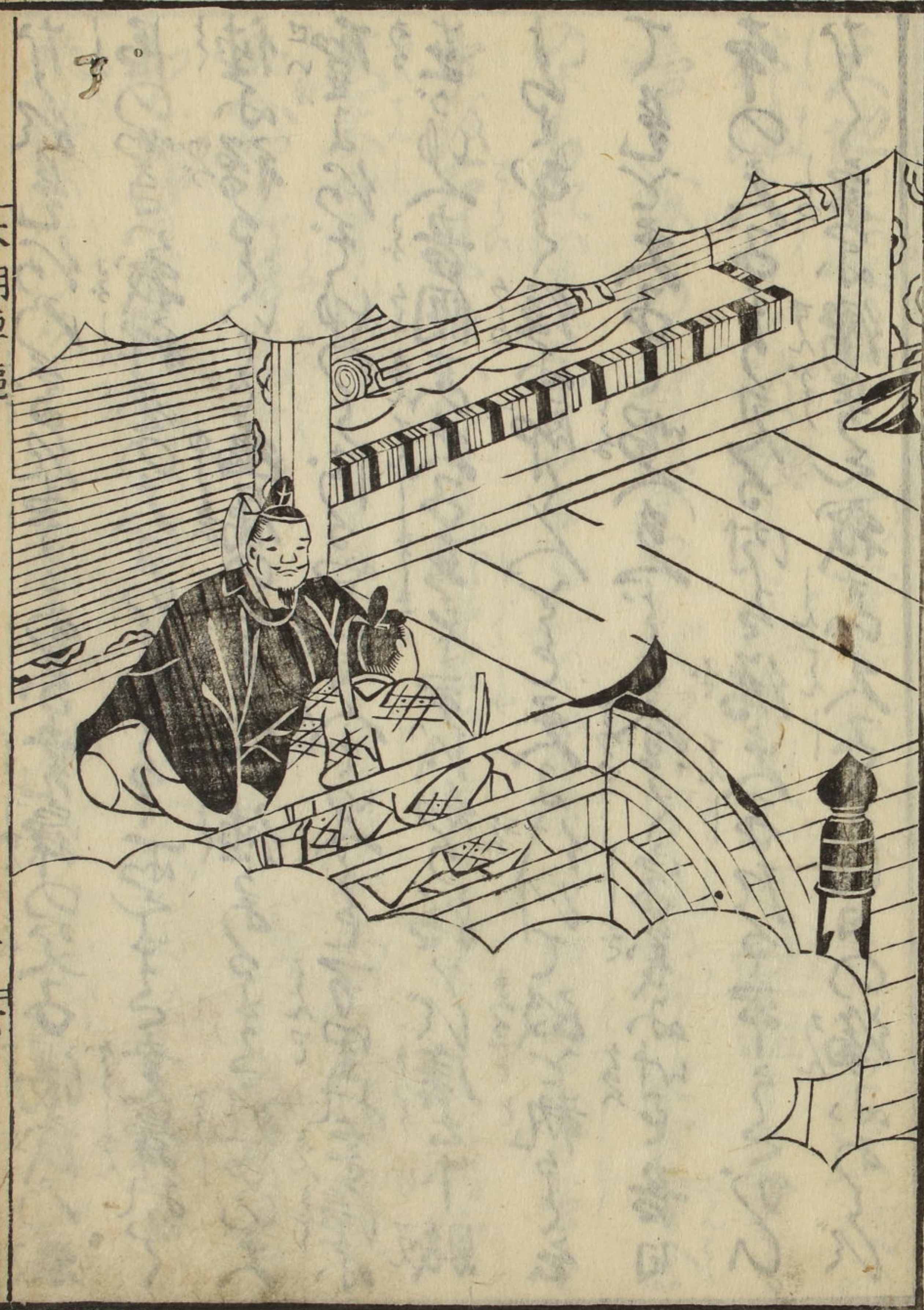
衣冠器用と云ふて西古より傳へ來りて想ふべき  
西古の言ふかど云て吾國史より云く神乃乃本源と  
如く云らば故に史唐古の國初人主と云る事吾神  
天皇よりみふあり且西古の聖と生ずる此地靈  
もて伏羲以後聖人継起て教化立ると云る事  
吾國より唐古と云く親祖として附屬するも  
亦多し然るも程子論天地曰地形有上下適  
吾不為中と云ふは唐古地と以て中央と云へんは  
初より日本と東夷といふ春秋の法ありて被さ

らまはいざー我ハ日本の産る者バ彼と西蕃西戎  
と唱つる事我皇史の法也中古西蕃の王より我  
天朝使となり内色そと蕃使蕃客と唱へり  
蕃使も下皇の使と理て昔 天朝とさし事  
類聚國史等小祥之豊芦原中國と又穀も万葉  
とて必及身余あるの意ありて穀種ゆふ民  
中とたのむかるを以て我芦原と名づく神聖の  
代より初なる皇孫より日本よ生まれたる男子  
して何ぞ産まざるやとて中皇とて昔神皇とて

我とさるハ皇孫國の罪人なりと云

天子考

抑昔皇の万世に及て皇孫の神孫乃統を  
天子いまして國闢乃久きまらる今皇統と  
易姓ノ事あり古事より外皇乃為小尺寸地也  
さるる事あり天孫と世不長久とて天位動た  
事かたと云く天乃子を稱ぐ國と神皇とい外皇  
乃王と推く天子と稱も彼ハ偽天子を殺して  
統と易野人トを以て皇孫即き胡種と云く帝と



たは是ののるに事ある竟舜の父子湯武の君  
臣のなき我神皇の大よひをさるる也まは竟舜は  
徳ふ徳ふといへど幽属の三王の徳あるまは孔子の大  
聖よのぞゆづらけらや聖人といへども百里はを徳ふ  
をぐゆへ吾國天子をまはすは初り給はば唐去下賤  
よとあはく信ふ即く人とも天子は代りて政と執ると云  
て是と天子と唱へるも金く字長ふけと吾日  
本の子天子より入る内を信天子たる事うごひ  
なくまは信ふ我天子と同日の端ふあは

天地開闢の初より万古不易の人まはかり給はば故ふ  
神孫と号せと彼教とて統と易く小慮難朝より世も  
帝と成りぬ難ひぬのびかく皇統の正は事万古  
のうちにいさごまどまはさかく皇統正は天子を奉  
事は古も今も知らる神字をまはす外はとも日本  
皇天子をまはして皇統正は万古不易は天徳を奉  
事は初り給はば吾皇とて年号正統と信べし孔子も是  
初り給はば天子の正は民の王なりとのまは  
春秋のはじめに信ふと信ふと信ふと信ふと



と清のあふり

冠位考

吾邦冠位の階級ハ逆のガリト云神皇正統記安河内系  
 授一袷と母服殿は織る事記不辨して衣冠の授與を  
 有る事焉一人皇少即てハ神代懿徳天皇此清宮之  
 冠二服と制し終ふ是君の冠衣なり又九代用化天皇の  
 清宮之冠と制し之事ヲ大和ヲ義大令乃び皇史ノ見  
 つり終る上古の制衣之と知る人あり也職系抄乃び  
 裝束抄也と之と載るび十代推古天皇十二年甲

成正月元日冠衣十二階と制し之事ハ推古紀より云へり又  
 之十六代孝徳天皇此清宮大化元年十二月七日之冠十二階と制  
 し之より又年十九階と定むる也古の冠と止らざれば清宮初  
 て八省百官と相記あや 定胤 相少小也よりされ人皇十二代  
 成務天皇此十二年春去月霜降と記して大原小任十代仲哀  
 天皇の朝小大任氏大連は任と神武の朝也也物居霜降乃  
 官のり十代崇神天皇此十二年秋天皇命と山陰を丹波  
 道皇命氏丹波を武津川別命と東海を古徳津  
 天皇と西海をきて吾將軍小任むむと云乃の將軍と

号して日本將軍此初と云ふ天智天皇此三年二月二十六日  
 行る軍代天武天皇十四年正月十二日軍八階と定むる事  
 古き冠と止る漆塗の冠を用ひらる軍代天武天皇此階  
 二十六年の冠と制系して今此世に云くわくあり  
 今 定流 考へて古き文武天皇の法より古き吾邦此階と  
 尚府古の冠と折衷のあがるる一を他國此の法を  
 為去る大使とせしめ事もなくまゝに要し我使を  
 なる事もかゝり十代崇神の法より初て為去る使とせしめ  
 事神皇正統記より出らる十代神代天皇此階と征伐して

彼玉璽の爲る將軍とわかれ給ふ之韓乃政と執りしその  
 居て日本府より去る去る疎はたるとしては内と云ふ勅使と  
 せしめし後漢書より倭の女王使とせしめし韓は法  
 代より我朝より傳はれし年八十の紀より首とつて初する  
 事なる事日本記より云く後二十代推古天皇の  
 法より西蕃隨の煬帝より傳へるの貢となりて使となりし  
 吾邦より西蕃より使となりし初よりは内と云ふ勅使と  
 日武天皇の天子事日本記より云く所の天子不政す一鹿戸皇子  
 等より我邦西蕃より通はるる軍代元正天皇



孝安年中古倭入唐ふくまると又十七代陽成天皇元  
元年西蕃より倭とて貢と西蕃の使と鴻臚館に  
諸儒回言の事あり又蕃使と南越の使と貢とて朝  
禮あり時蕃使右大臣の詩綾あり蕃使ありと書とて白樂天  
乃詩の如くとの日之書の事と考へて古冠位と西去  
致らる事明く中古文武の法字折衷ありと書とて  
漢で宋濂が句も有らん今世法必不城邑ゆるととも  
帝教の書つる事及びのわく固て遠境の事とら帝教  
風俗と事書つる文或る朝小冠位折衷ありと書

は理を以て推さむを識安うと

封爵考

西去の書小日本中國の朝貢とて封爵とてと書る作  
あたる事とて思ひ不實と書ふと利根氏大納言源義  
てその明の母とて爵とて日本主の印とてと書る義  
る外は向ひ信と稱し爵とて文官とてと書る身出  
乃系の比連代者邦の如くして神皇の衆を理て  
明の武備志の古て古くはるる事記  
て後世長秀を皇朝祥雲我々の時小西書ふ朝使と肥

名護屋の振領への秀吉軍統より今園白の重祿に任  
大政大信の振領小居あててまゝ天のまゝ大政大信に任  
あててつた河を我軍の内ぬけ軍旅武備の系をせしめ  
文學ふところけしめ明の封爵をせしめつた封爵の明帝  
の位を承ふ事ぞと思ひ入はれし昔明帝ころは日本出の法候  
とも承く封明の世とて悉く日本出候より易く  
日本出候より日本出候とて明帝より明帝の位を承ふ  
へて老と書しゆか中とてのあひ初め候もの老とて候し  
ゆかろふ明の帝より秀吉と日本王と小封とら此書とて

殿下大いせ明書封中とてなとて授て侍居し命して明使  
よ告しめし秀吉其身微候より也  
秀吉尾羽中封の者ありて秀吉一隊日本  
あてて二人とてなとて今園白の祿に任し中候とて責振とて事  
も備ふ 天恩とて承とて承今女王御承ふ事より昔小居  
王の封中とて承とて承理ふ事とて承とて承とて承とて承  
しめおまよひし信とて承とて承とて承とて承とて承とて承  
護屋より進へし事大園紀大令考をた秘授ふ事とて承  
義満とて承とて承とて承とて承とて承とて承とて承とて承  
書し 徳義満の大令考より義満とて承とて承とて承とて承

大將軍に任じて何れをたつるもそのまゝにまゐりて貴き  
 長く稱するや敬ふかや此下一人の貴き周孔の  
 如きも徳と貴むの文理自然の理にて或は周孔の  
 必とあらずに來るべし迷ふ所をさるるも日本人も理介し  
 西の生るる其爵と云ふは先代の面と配り子孫の業を  
 りしに和室の封爵にあつては王候の位と云ふも人  
 貴きことと云ふらんや

本朝要樞一と巻終

板形目録

京都書林 寺町通三条上町  
 菊屋安芸清

孝經

山崎嘉貞  
 并道春点  
 一冊

藝苑録

京都勝元鳳著  
 詩学化方新刻  
 二冊

十四經指南

林玄厚  
 經絡圖解  
 一冊

十四經傳

懐中女官名と平らる  
 佩伝初学安事  
 一冊

二體詩

道春点  
 三冊

般若心經決法抄

勢洲保林法道  
 行後名經釈和解  
 一冊

高宗佛身義

惠澄  
 新刻  
 一冊

高宗勅化公信銘

豫州新書  
 行後名經釈和解  
 五冊

傳教大師傳記

平多忍入  
 比叡山延暦寺  
 用山并付録  
 一冊

二國温故要畧

經宗著  
 故事同縁  
 五冊

空一尊字書

小坂氏貞重  
 大極之抱  
 三冊

移竹齋句集

四孝之句  
 中化房序  
 二冊

和哥連飛

綾屋要  
 新刻  
 二冊

初名物浮繪

阿茶院圓鏡法  
 新書  
 五冊

文選之用字後流

中村之近子著  
 土農工商之書  
 并字盡入  
 一冊

四民性表

中村之近子化  
 五卷大要字盡入  
 五冊

尚流手本操

万子形  
 文切  
 一冊

女用文章傳史卷

初学通入  
 一冊

板形目録

似城堂裏記 後入上之 六冊

後福 龜友著 又冊

神道三種大後參說 明松庵 秀著 一冊

男用文章大成 一冊

風雅 龜友著 又冊

西行物語 西行一代ノ記 并和哥入 三冊

和歌威德物語 和歌中使 及び鳥記 又冊

為漢郷和哥講談 二冊

勸善懲惡集 慧燈 七冊

後世物語抄 三冊

一角仙人曰本子櫻 後入上之 又冊

讚洲金毘羅冥驗記 讚洲 三等選 一冊

童訓雜書方海寶藏 庭訓雜書和文章 一冊

淺井物語 平多子後入 軍半 六冊

文激明赤壁賦 弟半 中字 一冊

御家模文章 後中 抄多 一冊

女弟儀滅野の秋 西山 名所 一冊

正水千字文 黒字指書 二冊

赤烏帽子熱氣質 龜友著 及入上之 又冊

技系後物語 大林文 法林寺教訓問答 是道子著 一冊

兼加 屈了篤口授 中臣被舊證 三冊

口合 仕用并ニ高判集 辰ノ秋新刺 桂亭 西選 紫山 手引草 一冊

倭異 虚鹽驢先生 大套話片カ付 淮東集 一冊

右俗語ヲ以テ滑稽語ニ作ル時勢ノ風ヲ諷シ 奇ヲ究妙ヲ竭シ 荒誕ノ人ヲ斗解ニシ 談話ヲ集メ

後西本願寺御棟上記 宝曆九年九堂 本 再建次第 一冊

大後武者 集 幟舞 踊 狂言 近委記 文武智勇海 三冊

全 毎相卦曼 夢福雜書万宝卷

懷曆雜書万宝卷 表面抄本 曆上中下段之更 占卜重法集

日本針術元祖 合 後分流鍼道秘訣集 一冊

勸信念佛法語 平多子 安ん奉 一冊

荒虫著新刺 也彼志草 返答 木菟草 三再答 以波保卷 一冊

新 西行法師 同下卷 定家判 宮川歌合 二冊

書翰庭訓万海宝藏 首書重法品々入多付 一冊

町家 及入上之 永井堂新著 世間且那氣質 一冊

左平武勇一覽 中本武者繪 首書注入 一冊

相如神原一学著 算盤記 二冊

童字節用大成 小本大字 首書注入 一冊

算法得常祿 南都岸上三云著 諸術評判子供愚問 圖解正教術五册 諸国繪馬解之問之 愚問新刺

諸国繪馬解之問之

愚問新刺

女四季用文章 一冊

貞宗勸化護法篇 秋葉起 五冊

安永新刻 本朝奇跡談 政勝 四冊

當内巡り大日本六十余州 カナ付 海川山名所旧跡難平国風記 後入

風流醉談義 血流 五冊

世酔、之酔編 安永新刻 并法義の定より

懷室西面記 年代記 并一代針入 一冊

西面万年曆 年代記 年々大小青 一冊

這箇録 全宛久人極訂 別百刻と筆て頌と分と 一冊

丹洲十箇畑 大道和尚法法 斤々付 一冊

世話 一冊

道得問答 石田先生門人兼葎 三教其つゝする所の要と深慮のたゞ 四冊

世話 五色帯 夏平半頭 三冊

世酔、之酔 安永新刻 入 世の住るゝとくくから集り

本朝藝物語 全五冊

不情事上下名を以て藝者傳 安永新刻 後入 世に於ては 藝者傳 藝者傳

古今相撲大全 故事 五冊

役者色仕組 故事 五冊

雜歌俚勢乃海 故事 五冊

雜歌富士乃根 故事 五冊

日海老平記 百辰帝永徳元年 百六代天文 九十九代 一冊

文激明何氏語林帖 小字 一冊

大和年代記 法方乃中記 一冊

狂口秘北門 作者 其碩 又冊

芝居字彙 并全後著 西ノ年新板 一冊

立身振乃 芝居 西ノ年新板 一冊

風流酒吸確 友芝 五冊

繪本舞臺扇 友芝 三冊

何万葉集 女中風俗 三冊

同友子書 女中風俗 三冊

日用字宝 増補 童子 一冊

風流 世間仲人氣質 一冊

芝居 知化碎 論 一冊

茶湯諸鈔大成 茶湯大全 十二冊

禪林徳道和尚 并 一冊

旅人懐中宝 乃中記 乃中記 乃中記 一冊

舞術志元録 藝別 舞術 一冊

日續舞臺扇 系 二冊

日武者通鑑 一冊

日武者軍鑑 智勇人 三冊



日知錄 二冊

紙花抄 二冊

狂言要略 一冊

京易世問 一冊

重刊雜抄 二冊

今古書考 二冊

繪本由緒 二冊

唐荆往來 一冊

安永改 一冊

繪本書物注 一冊

日知錄 二冊

宋元章千字文 一冊

狂言要略 一冊

法方乃申記 一冊

繪本要略 二冊

源氏物語 一冊

同化抄 二冊

陰陽台通書 一冊

大和年代日圓書 一冊

一休狂言 一冊

本朝 浦辺源曹作 奉織初室初とて西土と  
小説 西劍奇遇 又冊

大方塵初記 一冊

小うこひ 當流 一冊

鬼費福吟百韻 一冊

今古 附録蜂房飛白 唐錦 一冊

明詩并多 又言絶句入 七言 一冊

假名文章 一冊

比言 指南 穿尚孫話 一冊

本朝要極 四冊

本心早合点 一冊

實話東西 一冊

新編蓬初記 一冊

世間常張鏡 二冊

笑林廣記抄 一冊

苑多歌字 二冊

商家往來 一冊

雜說叢話 三冊

日合 兼合 兩撰 一冊

當世孫傳 四冊

福州每年書 一冊

